

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと

里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

鹿背山へGO！（里山活動に参加してみよう）

毎年、適度に人の手に加え続けられた結果、里山は荒廃から守られ、森を若返らせ保全されてきました。人の手が入らなくなった里山活動の第一歩が、樹木と竹の伐採、農的利用の再開でした。

樹木の伐採

「木を伐るのは自然破壊じゃないの」と考える方もいるかもしれませんが、それは違います。実は、放置された森は木が密集した結果、日光が入らず、暗くて元気がない森に変わっていくのです。

必要な木を残し不要な木は伐採することで、森に適度な陽が差し込み、明るくなれば様々な生きものが共存できる環境が取り戻せるのです。

木の伐採は、大人や子ども、性別に関係なく楽しんで取り組める活動です。ノコギリで木を伐り倒したときの爽快感、ぜひ味わってください。



竹の伐採

竹林は古くから里山の代表的な植生で、農具や生活道具としてよく利用されてきました。しかし、生長が早いので人の手が入らなくなり放置されるとすぐに密集し、他の生きものが共存できない竹藪に変わってしまいます。

竹林と里山の様々な生きものが共存できる環境を保つためには、適度な伐採が必要です。



農的利用の再開

山間に開墾された水田は、面積が小さく、機械化された現代の農業では生産効率が上がらないことから、減反の対象田となりました。

放置され耕起されなくなった水田は、雑草が生い茂り、かつての面影を忍ぶことができなくなっていました。背丈ほどに伸びた雑草を刈り、耕起し、水を溜めることで、水田としての利用を再開しました。

耕起され、水が溜められることで、希少生物「カスミサンショウウオ」の産卵場所としてのフィールドに戻ったのです。

農地が大規模化され、機械化によって成り立つ農業ではない、手による田植え、鎌での刈り取り、ハサ掛けでの自然乾燥といった、手作業による農業に取り組みたい方、一緒に活動しませんか。

里山再生はゴールのない営みです。クヌギは伐採しても切り株からは脇芽が出て、10年後には伐採対象の木に生長します。

竹は生長が早く、もっと顕著です。水田も耕作を止めればあっという間に草むらに変わります。ですので、この活動は、続けることが必要なのです。続けるためには楽しさが決め手になります。

楽しく進める知恵をお持ちの方、ぜひ鹿背山の里山へお越しください。



CSR活動

市民団体の活動はもとより、セキスイハイム近畿株式会社さんもCSR活動として、「セキスイハイムの森・木津川」森林保全活動を実践していただいています。

7月15日の活動では、約70人の参加者が里山整備や果樹の植樹に心地よい汗を流してくれました。

里山で繰り返された営みが、様々なグループの手によって進みだしています。

参加してみようと思われる方は、問い合わせてください。

